

平成24年度全国学力・学習状況調査の結果について

鹿角市教育委員会

I 実施の状況

1. 調査の目的

- (1) 国が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

2. 実施対象学年

小学校第6学年、中学校第3学年

3. 調査の内容

(1) 教科に関する調査

- 国語A、算数・数学A 主として「知識」に関する問題
- 国語B、算数・数学B 主として「活用」に関する問題
- 理科

(2) 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

4. 実施期日

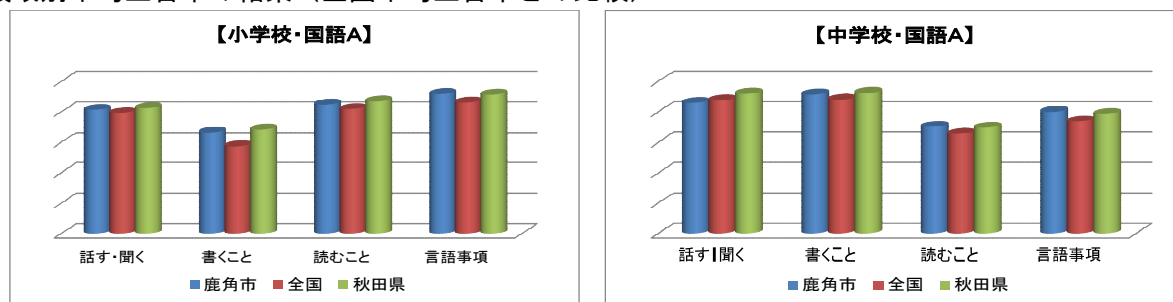
平成24年4月17日（火）

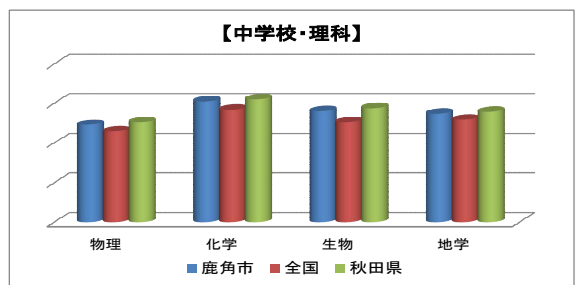
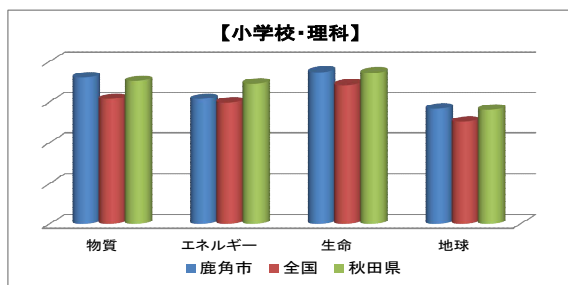
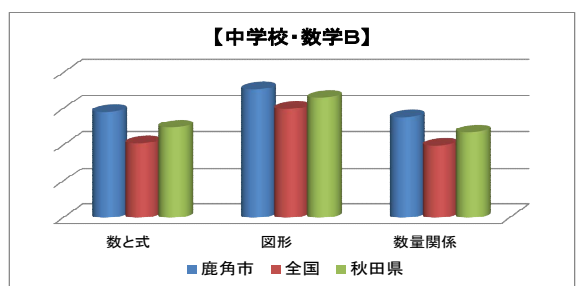
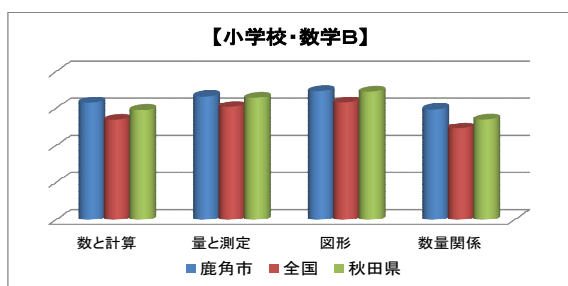
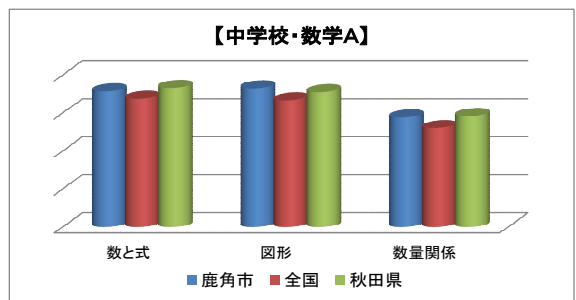
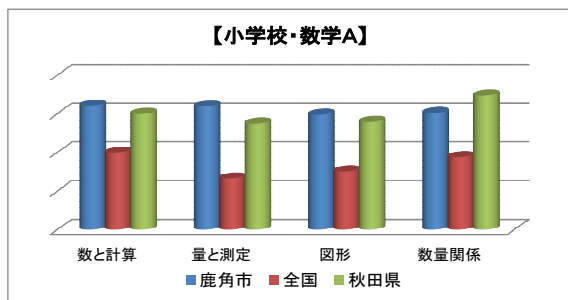
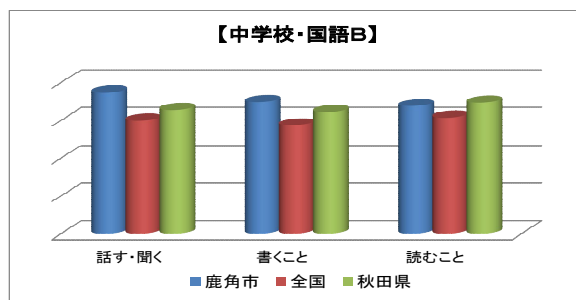
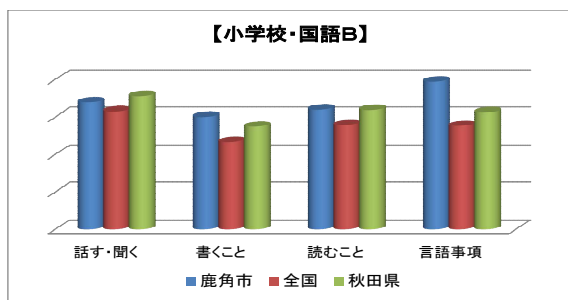
II 結果の概要

1. 概況

- 小・中学校とも全国平均正答率と比較した場合は良好である。秋田県平均正答率と比較した場合、小学校国語A、小学校理科、中学校数学A、中学校理科で0.2～1.2ポイント下回った。前回（H22年度）と比較すると、小学校国語Aは差が縮まったが、中学校数学Aでは1.9ポイント下がる結果となった。
- 領域別平均正答率では、秋田県平均正答率と比べると、小学校では国語Aの「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」、国語Bの「話すこと・聞くこと」、算数Aの「数量関係」、理科の「エネルギー」の各領域で下回った。国語Bの「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、算数Bの「数量関係」で5ポイント以上県平均正答率を上回った。中学校では国語Aの「話すこと・聞くこと」「書くこと」、国語Bの「読むこと」、数学Aの「数と式」「数量関係」、理科の全領域で秋田県平均正答率をやや下回っている。しかし、国語Bの「話すこと・聞くこと」「書くこと」、数学Bの全領域で5ポイント以上上回った。

2. 領域別平均正答率の結果（全国平均正答率との比較）





3. 小問別平均正答率の結果

	教科	設問数	全国平均正答率との比較
小学校	国語A	17	16の設問で全国より上回る。(8の設問で全国5ポイント以上)
	国語B	11	11の設問で全国より上回る。(7の設問で全国5ポイント以上)
	算数A	19	18の設問で全国より上回る。(13の設問で全国5ポイント以上)
	算数B	13	13の設問で全国より上回る。(8の設問で全国5ポイント以上)
	理科	24	21の設問で全国より上回る。(13の設問で全国5ポイント以上)
中学校	国語A	32	30の設問で全国より上回る。(16の設問で全国5ポイント以上)
	国語B	9	9の設問で全国より上回る。(7の設問で全国5ポイント以上)
	数学A	36	32の設問で全国より上回る。(22の設問で全国5ポイント以上)
	数学B	15	15の設問で全国より上回る。(9の設問で全国5ポイント以上)
	理科	26	19の設問で全国より上回る。(10の設問で全国5ポイント以上)

4. 各教科の状況

【○…良好な内容(正答率90%以上) ▲…課題となる内容(正答率40%未満)

△…課題となる内容(秋田県平均正答率比－5%以上、または全国正答率を下回る)】

<小学校・国語A>

- 学年別漢字配当表の当該学年の前の学年までに配当されている漢字を正しく読む(建築、独立、許す)
- 学年別漢字配当表の当該学年の前の学年までに配当されている漢字を正しく書く(たいよう、ぬの)
- 目的に応じ、収集した情報を関係付けながら話し合う。
- 百科事典を読み、目的に応じて中心となる内容をとらえる。
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を筆順に従って正しく書く。
- △ねらいを明確にして質問をする。

<小学校・国語B>

- △司会として話し合いの目的を再確認し、計画的に話し合いを進める。
- △編集者の意図をとらえる。
- ▲手紙の構成を理解し、後付けを書く。

<小学校・算数A>

- 繰り上がりのある加法の計算をすることができる。
- 整数の除法の計算をすることができる。
- 小数の乗法の計算をすることができる。
- 加法と乗法の混合した整数の計算をすることができる。
- 異分母の分数の減法の計算をすることができる。
- 数の相対的な大きさについて理解している。
- 平均の意味を理解し、測定値の平均を求めることができる。
- 表を用いて、二つの数量の関係が比例の関係にあることを理解している。
- △1に当たる大きさを求めるために、除法が用いられることを理解している。
- △百分率の意味について理解している。
- ▲場面と図とを関連付けて、二つの数量の関係を理解している。

<小学校・算数B>

- 支払い方の工夫を解釈し、おつりの金額を硬貨の種類と枚数に対応させることができる。
- △示された時間の範囲から、目的に応じて所要時間の見当を付けることができる。
- ▲表から適切な数値を取り出して割合の大小を判断し、その理由を記述できる。

<小学校・理科>

- 物は、形が変わっても重さは変わらないことを理解している。
- 植物の受粉と結実の関係について、科学的な言葉や概念を理解している。
- 光電池や乾電池の働きを強くするための要因を理解している。
- 方位磁針の名称を理解している。
- △学習した植物の成長の規則性を他の対象であるサクラに適用できる。
- △気温が異なる地域のサクラの開花時期をデータを基に分析できる。
- ▲電磁石の強さを変える要因について確かめる実験を、条件を制御しながら構想できる。
- ▲方位磁針の適切な操作方法を身に付けている。
- ▲天気の様子と気温の変化の関係についてデータを基に分析して、その理由を記述できる。

<中学校・国語A>

- 自分の話を聞き手に理解してもらえるように資料を用いて話す。

- 手紙の形式を理解して書く。
- 比喻を手がかりにしながら文脈をたどり、内容を理解する。
- 伝えたい事柄を明確にして書く。
- 文脈に即して漢字を正しく書く。
- 文脈に即して漢字を正しく読む。
- 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う。
- ひらがなで表記された作品名をローマ字で書く。
- 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む。
- △聞き手や場面を意識して、適切な語句を選択して話す。
- △語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う。

<中学校・国語B>

- 文脈の中における語句の意味をとらえる。
- △話の展開に注意して聞く。
- △資料に書かれている情報の中から必要な内容を選び、伝えたい事柄が明確に伝わるように書く。

<中学校・数学A>

- 回転体がどのように構成されるかを理解している。
- 三角柱の展開図について理解している。
- △数直線上に示された負の整数を読み取ることができる。
- △簡単な比例式を解くことができる。
- △三角形の合同条件を理解している。
- △証明の意義について理解している。
- △反比例の関係を表す表から、表中の値を求めることができる。
- △2つの数量の関係が一次関数になることを理解している。
- △相対度数の必要性和意味を理解している。

<中学校・数学B>

- 作図の手順を理解し、作図によってできる図形の特徴を的確にとらえることができる。
- ▲軌道の長さの差を求める計算を解釈し、数学的な表現を用いて説明することができる。
- ▲問題解決の方法を数学的に説明することができる。
- ▲図形の性質を数量の関係に着目してとらえ直し、その特徴をとらえ、数学的に表現することができる。

<中学校・理科>

- 「地層の連続性や成因を調べるために、断層の有無や地層に含まれている粒に着目する」という地層観察に関する技能を身に付けている。
- △花のつくりを考える場面で、花のつくりの共通点や規則性に関する知識を活用して、アブラナの花のつくりを表している模式図を指摘することができる。
- △電流計の読み方の技能を身に付けている。
- △実験結果を分析し、豆電球と発光ダイオードの消費する電力を比較することができる
- △実験の考察とLED電球の省エネの効果を関連付けている場面で、電力に関する知識を活用して、LED電球の省エネの効果を考えることができる。
- △火山灰の広がり方を考察する場面で、火山などの知識を活用し、偏西風の影響などの情報から、火山と観察地などの位置関係を推定することができる。
- △水溶液においては、溶質が均一に分散していることを粒子のモデルと関連付けて理解している。
- △「水槽の中の液体が、食塩水の1層なのか、上層が水、下層が食塩水の2層なのか」ということを検証する実験を計画することができる。
- ▲実験結果の考察から花が開く温度を予想して、適切に温度を設定し、追実験を計画することができる。

- ▲抵抗の直列つなぎ，並列つなぎなどに関する知識を活用して，他者の実験方法を検討し改善して，正しい実験方法を説明することができる。
- ▲電力量を理解している。
- ▲観察地における地層の広がり方について，観察地の図と観察結果から分析して解釈し，地層の傾きを認識して，その傾きの方向を指摘することができる。
- ▲地層などの知識を活用し，過去の火山活動が活発だった時期の回数についての他者の考察を検討し，根拠を示して改善した考察を説明することができる。

Ⅲ 今後の方策（各校の具体的な取組）

【小学校・国語】

- ・主述を読み取ったり，書いたりする指導を大切にする。
- ・自分の意見や考えを結論と理由をはっきりさせて発表させる。
- ・長文でも，始めに問われていることを大まかに把握させ読み進めさせる。
- ・朝学習等を使い，短作文を書いた後，校正する時間を確保する。
- ・漢字の筆順の原則を個々の漢字と結びつけて指導する。
- ・相手や目的を明確にして報告文や意見文を書く指導を行う。さらに，書いた文章について感想や意見を述べあったり，表現の仕方に着目して助言し合ったりする話合いの場の工夫に取り組む。
- ・新出漢字を学習する時に，使い方などを丁寧に確認する。
- ・実物のパンフレットなどを使い，効果的な表現をしているところを見つけたり，実際に作ってみたりするなどの学習活動を取り入れる。
- ・物語全体の構成を理解し心情や場面を捉えられるようにするために，登場人物，場面設定，出来事，クライマックスなどを確認してから読み取る活動をする。
- ・書く能力を高めるために，筆者の意図を捉え，自分の考えを書く活動を単元の最後に取り入れる。
- ・読み取りの強化については，まず自分の考えを書き，それをもとにペアで話し合う，そして全体でまとめていく，という授業の流れで進めるようにする。
- ・物語については，叙述に即した読み取りをするためにキーワードに着目させるよう工夫する。
- ・問題文の理解を図るようにする。（どんな条件か，どんな情報を活用できるのかについてキーワードを探したり，大事な部分にサイドラインを引いたりする。）
- ・日常的に敬語を使ったり，スピーチで条件を加えたりして，伝えたいこと，表現したいことの目的にあった話し方ができる場を設ける。
- ・単元の初めは必ず語句を調べることで，また辞典をいつもそばに置いて，分からない語句があるときにすぐに調べ，ノートに書く習慣をつける。
- ・家庭学習の仕方を工夫して漢字の学習に取り組ませ，定着を図るためにミニテストで確認する。
- ・作文では，シートを活用し，自分の考えを効果的に，また明確に表現できるようにする。
- ・自分の考えを書いたり，話したりする機会を多く設け，時数制限等，条件を満たしながら進めることができるように指導する。
- ・2学期中に小学校で習う漢字の指導を終え，まちがえやすい漢字の練習に重点的に取り組む。
- ・適切な文章表現ができるよう字数や観点，時間などの条件を与えた作文指導の時間を設ける。

【小学校・算数】

- ・小数や分数等の計算を繰り返し練習させ，定着を図る。
- ・解き方について，筋道立てて順序よく説明する指導を行う。
- ・図形に関して具体物を用い，様々な方向から見て，その特徴をつかむことができるようにする。
- ・基準量や比較量を求める場面において，数直線図や簡単な数値に置き換えるなど様々な方法を用いて，演算を決定することができるように指導する。
- ・問題を解決するために必要な情報は何か，どのような手順で考えていけばよいか解決の見通しを吟味する活動を授業に取り入れる。
- ・算数的活動の重視。量的感覚を養うことを大切にする。
- ・計算の習熟を確実にし，十分に定着していない児童には，個別指導を行う。

- ・問題を多角的に見て解く力を付けるために、数量関係を図や数直線、式など複数の方法で表す活動を取り入れる。
- ・数学的な考えを身に付け説明する力を高めるために、他者の考えを説明したり補足したりする活動を取り入れる。
- ・一単位時間のまとめを課題に照らし合わせて自分で書くようにする。
- ・教科書の復習ページ等を活用しながら苦手分野を強化する。
- ・授業の終末段階に基本的な練習問題の他に発展的な問題を用意して、応用できるようにする。
- ・記述する力を強化するため、ノートに式や図、言葉を使って、考え方をまとめる時間を確保する。
- ・正解にたどり着くまでの思考過程をさまざまな例題を基に解説する。また、例題に即した類似問題から正解にたどり着くまでの手間を惜しまないように、繰り返し練習をする。
- ・算数的活動を通して、自分の考えの根拠となった理由を明確にして話したり書いたりする活動を大切にする。
- ・文章問題は、必要なことに青と赤でマークするようにして、条件を整理・確認できるようにする。
- ・考えの説明や理由付けを身に付けるために、自分の考えや解き方をノートに書くことを徹底する。
- ・過去の単元評価問題を活用して、苦手な領域を中心に繰り返し指導する。また、T Tを活用して個別指導を行う。
- ・児童の意欲を喚起する問題・課題提示を工夫する。
- ・自分の考えを文章や図で表現したり、お互いの考えのよさや相違点に気付いたりする場面を意図的に設定する。

【小学校・その他】

- ・一人一人にしっかりと考えをもたせられるよう、話したり、書いたりする経験を大事にする。
- ・自分の思いや考えなどについて話し合い、まとめる経験を積ませるようにする。
- ・放課後に4～6年の算数に1～3年の教員が入る補充指導の時間におけるより効果的な方法を探る。
- ・朝学習や家庭学習でも県の学習状況調査の過去問や算数の単元テストで落ちている問題に取り組む。
- ・月1回の補充指導の時間、学期1回の補充指導期間の実施により、補充的な学習や発展問題に取り組む。
- ・学習内容を習得させるためのプリントを作成し、多様な問題に取り組ませる。
- ・朝学習や補充指導の時間を活用し、通過率の低かった類似問題を実施する。
- ・家庭でも読書に取り組ませ、多様なジャンルの本に親しむようにする。
- ・朝学習の時間に短作文に取り組み、一定時間で課題にそって、一定量を書く練習をする。
- ・家庭学習に毎日日記を課し、文章を書くことへの抵抗感を少なくするようにする。
- ・読書活動の推進と図書室の活用
- ・家庭学習計画表を活用し、休日の家庭での学習習慣を定着させる。
- ・自作の各月ごとのドリルテストや各学期のまとめテストを行い、満点が取れるまで繰り返すことで、漢字や計算などの基礎的な学習の定着を図る。
- ・放課後や長期休業中に個別指導を行う。
- ・県の学習状況調査や全国学力・学習状況調査等の過去問を家庭学習で取り組み、朝学習で答え合わせをしたり、大切なポイントについて繰り返し解説したりする。
- ・反復練習をするためのプリントを棚に並べ、個々のペースで家庭学習や放課後学習に取り組めるようにする。

【中学校・国語】

- ・過去の実力テストや入試問題等から問題を精選し、授業の中でも例題として解く場を設ける。
- ・自分の考えを書いたり話したりしてグループ学習や生徒の発表する場面を意図的に設定するなどし、多様な考えに触れる機会を多く設ける。

- ・「書く力」を向上させるために、考えたこと感じたことを2～3文の文章で書く活動を継続実施し、さらに書いた文章は必ず紹介し合うように指導する。
- ・毎時間、漢字小テストを実施する。
- ・自己評価カードを活用し、学習内容の振り返りを充実させる。
- ・課題解決的な学習課題を設定した授業を行い、さらに活用する力を意識した授業を展開し、伝え合う活動を多く取り入れる。
- ・聞き取り問題の継続実施。
- ・文章を正確に読み取らせるため、語句に着目させたり、表現の違いを比較させたりする活動を重点的に行う。

【中学校・数学】

- ・学習内容の定着を図るため、授業の中で既習事項を利用する場面を増やす。
- ・過去の全国学力・学習状況調査の問題を復習する機会を設け、苦手分野の克服に努める。
- ・説明する力を伸ばすために、自力 解決、集団解決の場を大切にし、比較検討したり、学び合い、教え合いをしたりして説明し合う機会を多く取り入れる。
- ・問題解決的な学習を多く取り入れるとともに、求める方法を説明する問題に対しての抵抗感が強いので、根拠を明らかにしながら説明する活動を多く設定する。
- ・秋田県学習状況調査や単元評価問題を授業で活用し、回復指導を行う。
- ・授業で学習した内容をもとに、週末課題や受験対策テキストを使い補充的な学習を行う。
- ・基礎的な計算などについて短時間で多くの問題が解けるようにするため、時間設定などをして練習問題に取り組む。

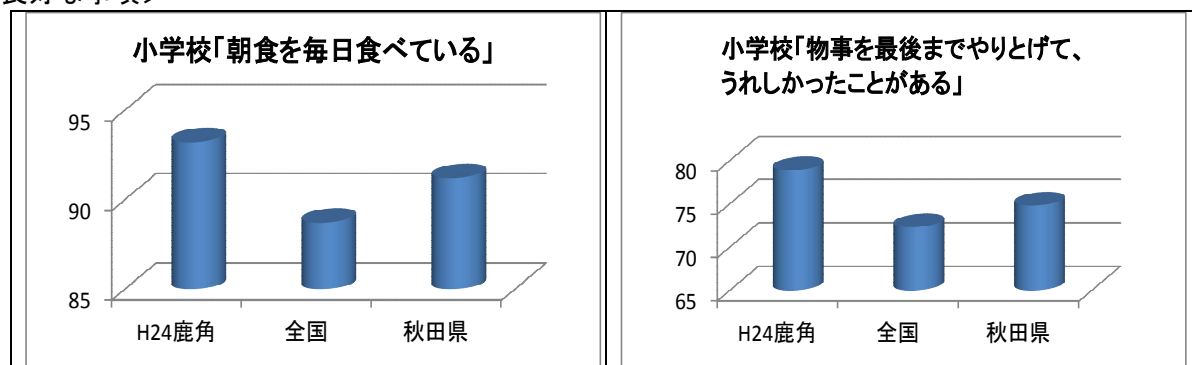
【中学校・その他】

- ・定期テスト前に学習相談の時間を設け、定着が不十分な学習内容の克服を図る。
- ・読解力の向上に向けて図書館読書を推奨し、朝読書を学級ローテーションで割り当てて継続実施する。
- ・人の話をしっかりと聞き、自分の考えを表現する力を育てるため、年間の行事や集会、委員会活動等での生徒の発言、発表の場を意図的に増やす。
- ・スピーチ活動を継続実施し、さまざまな相手を意識した表現に留意して、情報発信能力を身につける。
- ・毎日漢字学習1ページを家庭学習の中に位置付けるとともに、漢字検定への取組を奨励したり全校漢字テストを実施したりして漢字の学習時間を増やす。
- ・全校数学テストを実施し、数学の学習時間を増やす。
- ・4要素（「内容」「方法」「レベル」「学び」）を盛り込んだ授業のねらいを作成する。
- ・学習に関するアンケートを実施し、授業改善を図る。

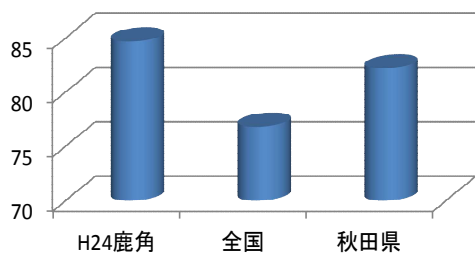
IV 児童生徒質問紙調査の結果

1. 小学校

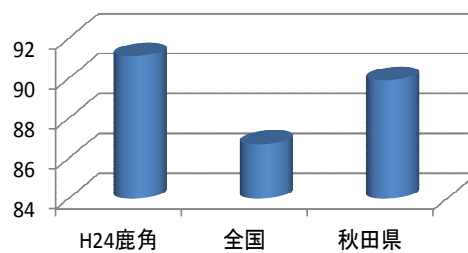
<良好な事項>



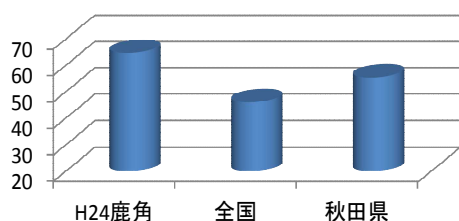
小学校「自分には良いところがあると思う」



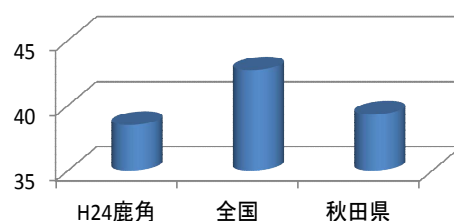
小学校「将来の夢や目標を持っている」



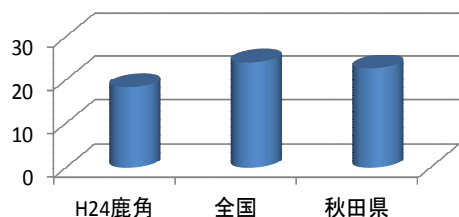
小学校「普段、午後10時までには就寝している」



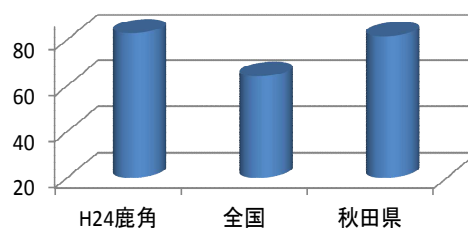
小学校「普段、3時間以上テレビやビデオ、DVDを見ている」



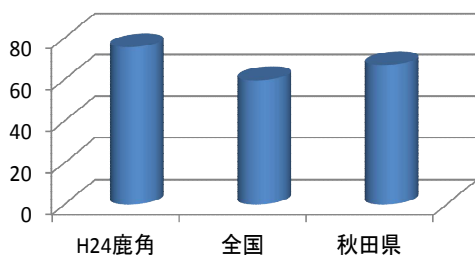
小学校「普段、2時間以上テレビゲームをしている」



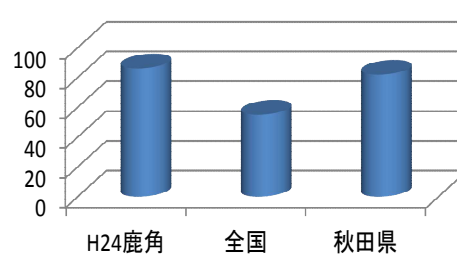
小学校「携帯電話を持っていない」



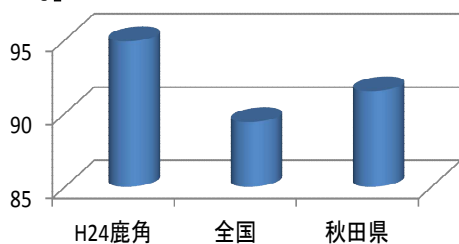
小学校「普段、1時間以上家庭学習をしている」



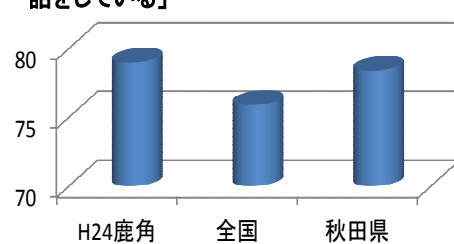
小学校「休日に1時間以上家庭学習をしている」



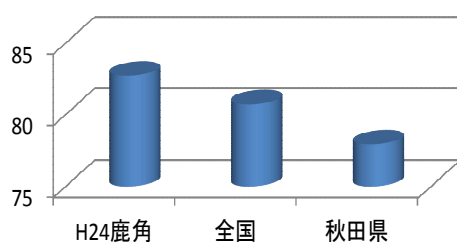
小学校「普段、家の人と一緒に夕食を食べている」



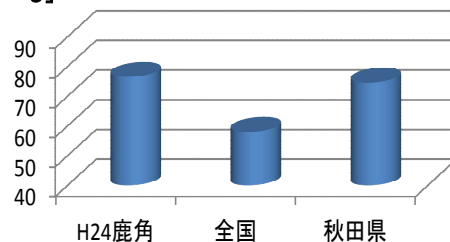
小学校「家の人と学校での出来事について話をしている」



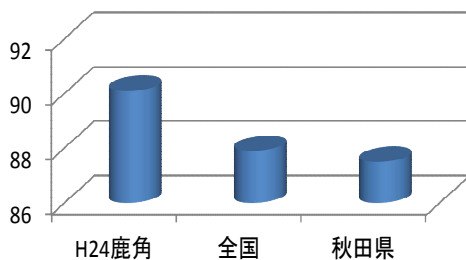
小学校「家の手伝いをしている」



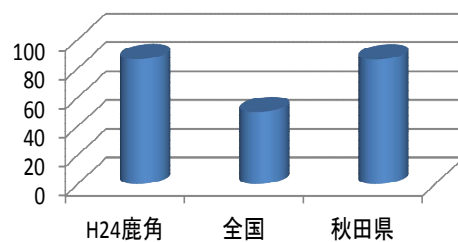
小学校「家で自分で計画を立てて勉強をしている」



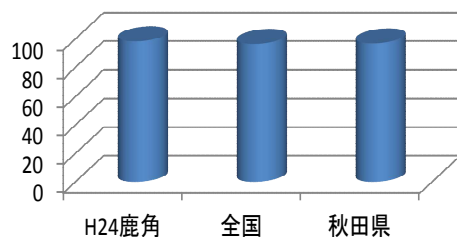
小学校「家で学校の宿題をしている」



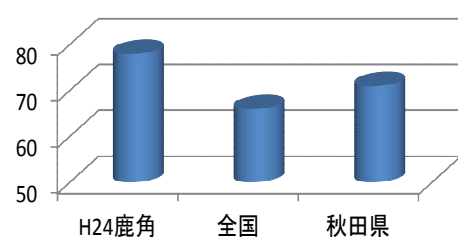
小学校「家で学校の授業の復習をしている」



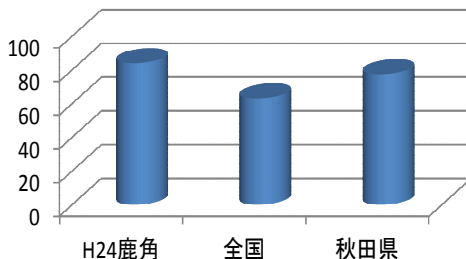
小学校「学校で友達に会うのは楽しい」



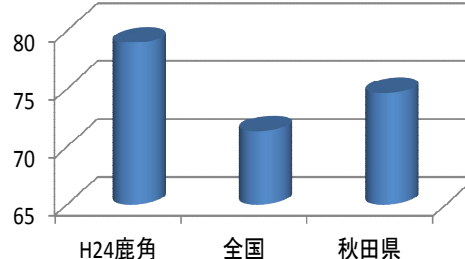
小学校「新聞やテレビのニュースなどに興味をもっている」



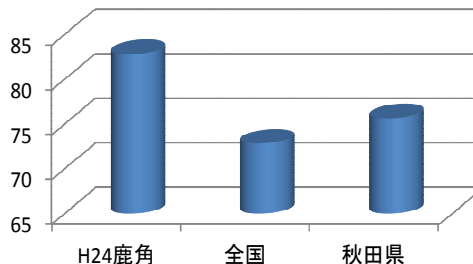
小学校「地域の行事に参加している」



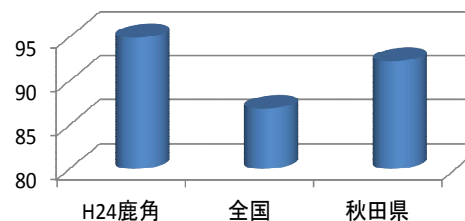
小学校「人の気持ちがわかる人間になりたい」

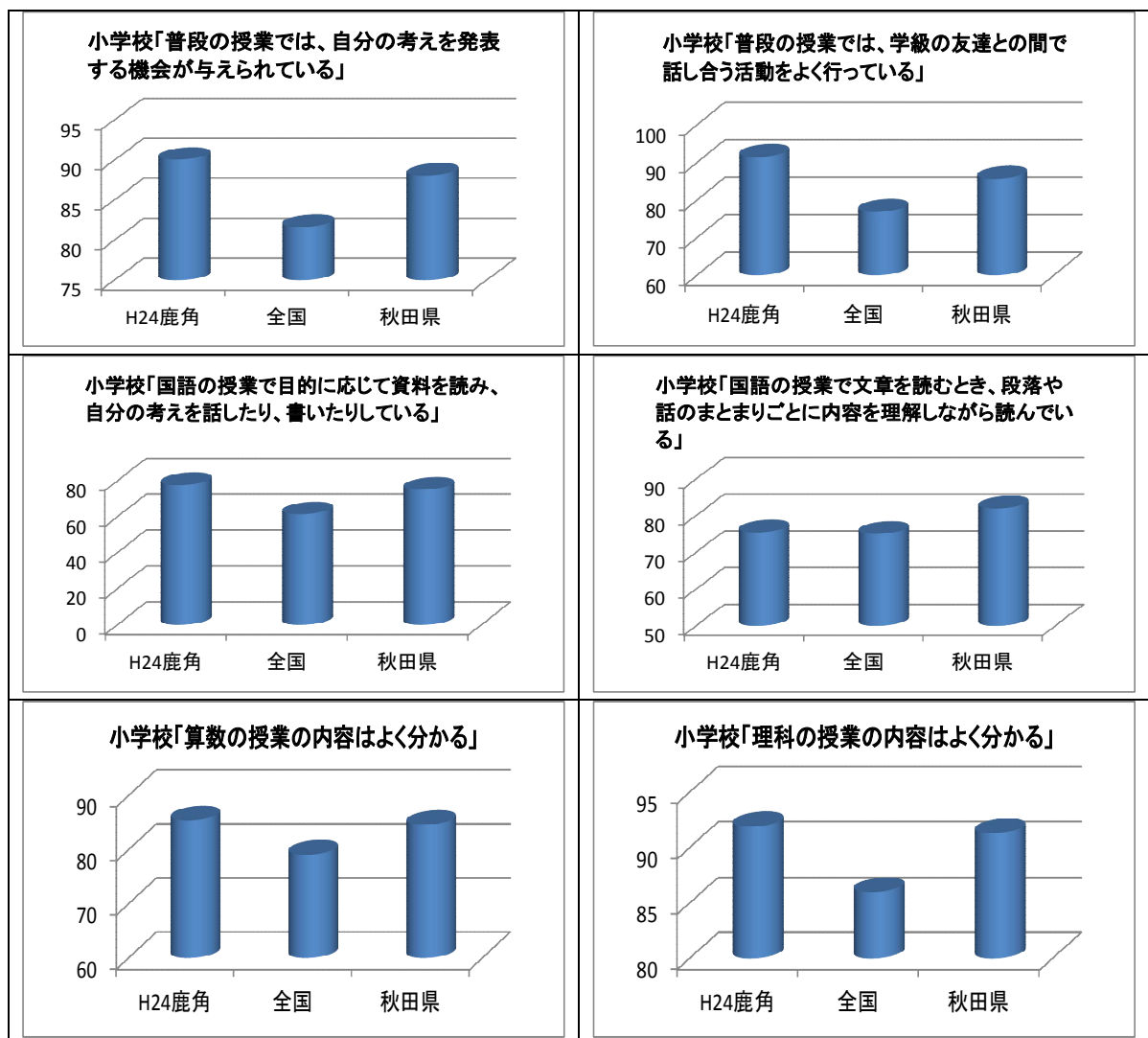


小学校「人の役に立つ人間になりたい」

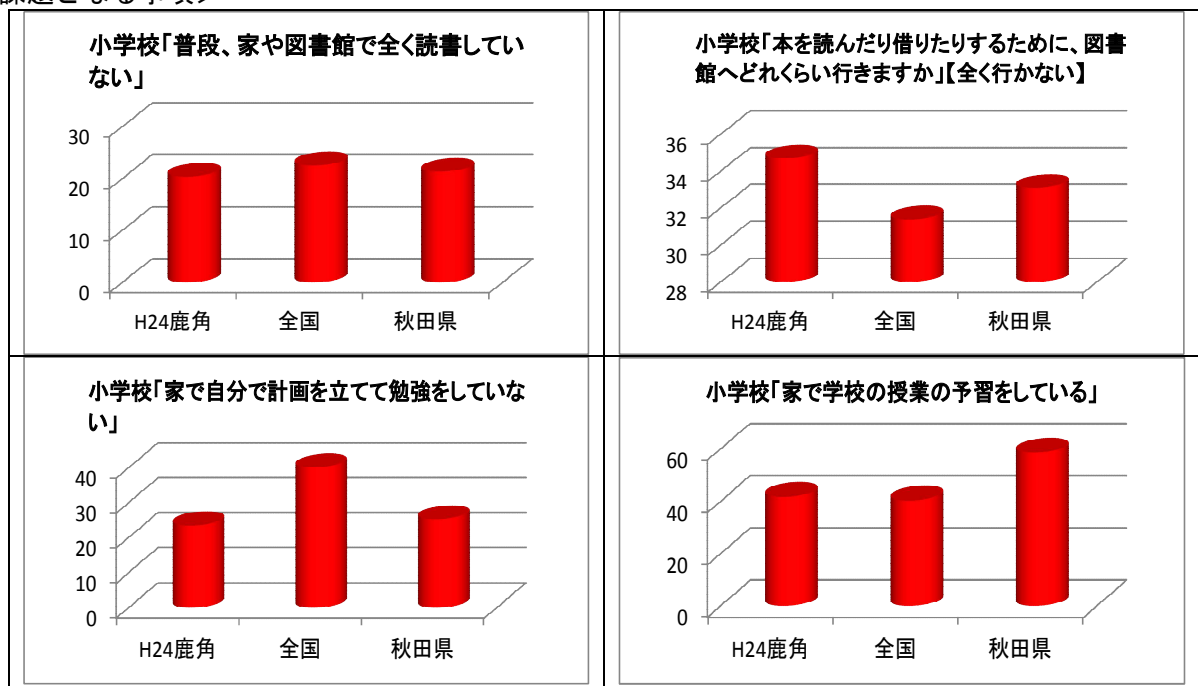


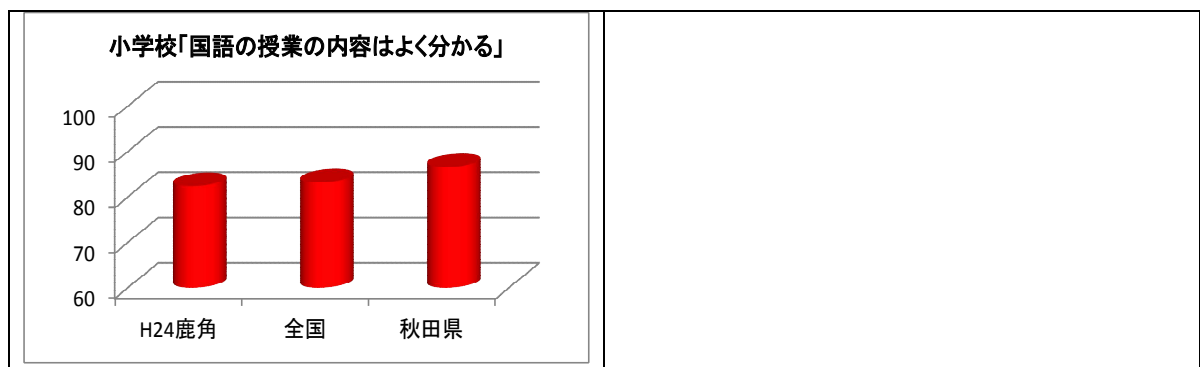
小学校「総合的な学習の時間の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思う」





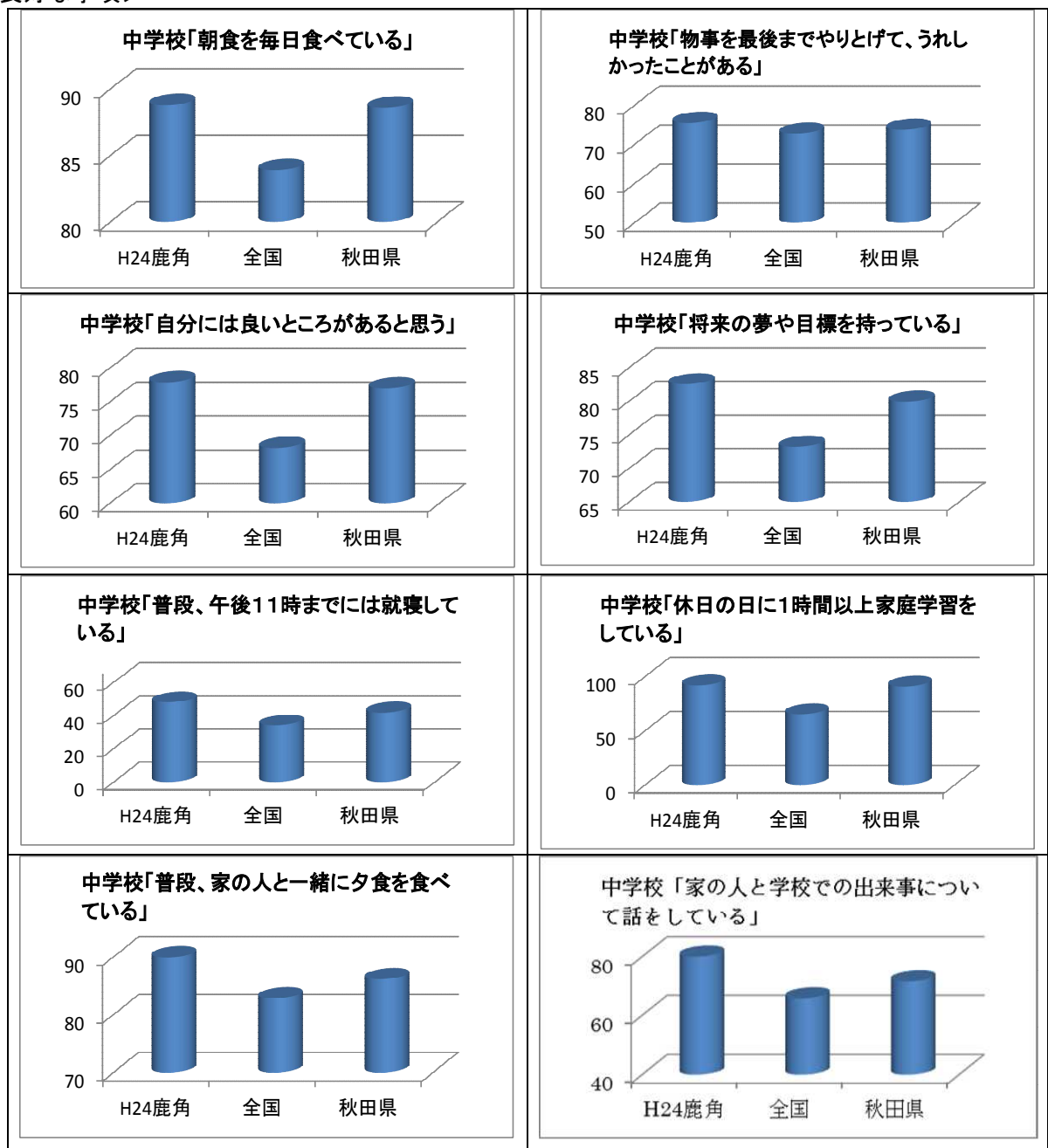
＜課題となる事項＞



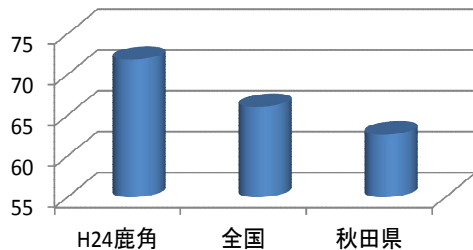


2. 中学校

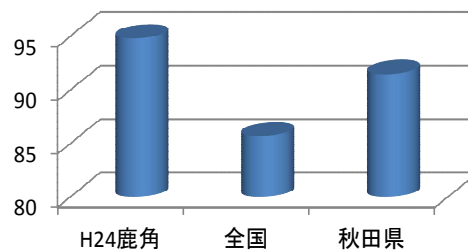
<良好な事項>



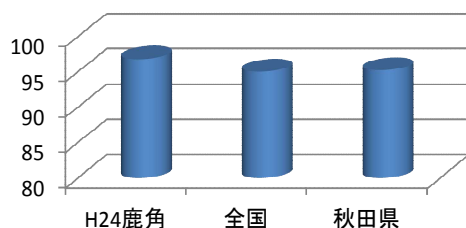
中学校「家の手伝いをしている」



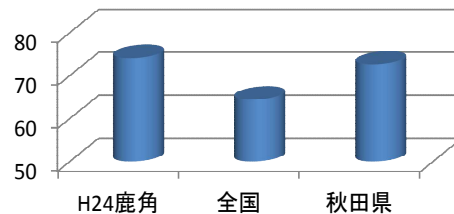
中学校「家で学校の宿題をしている」



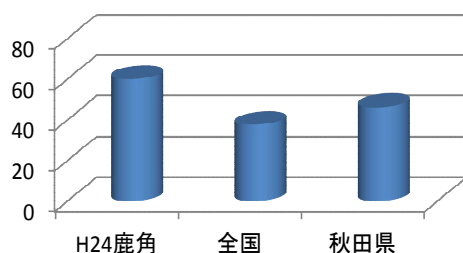
中学校「学校で友達に会うのは楽しい」



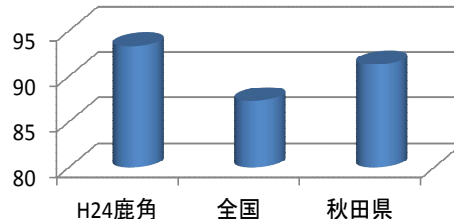
中学校「新聞やテレビのニュースなどに関心をもっている」



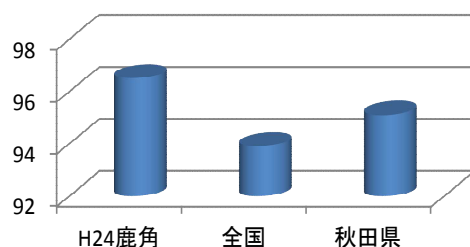
中学校「地域の行事に参加している」



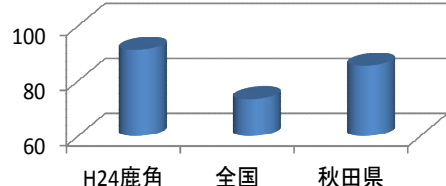
中学校「近所の人に出会ったときは、あいさつをしている」



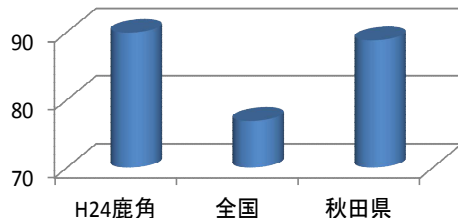
中学校「人の役に立つ人間になりたい」



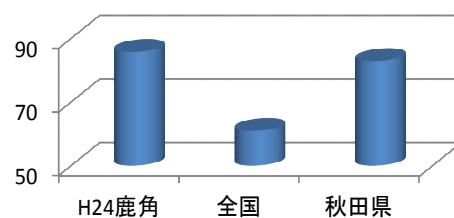
中学校「総合的な学習の時間の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思う」

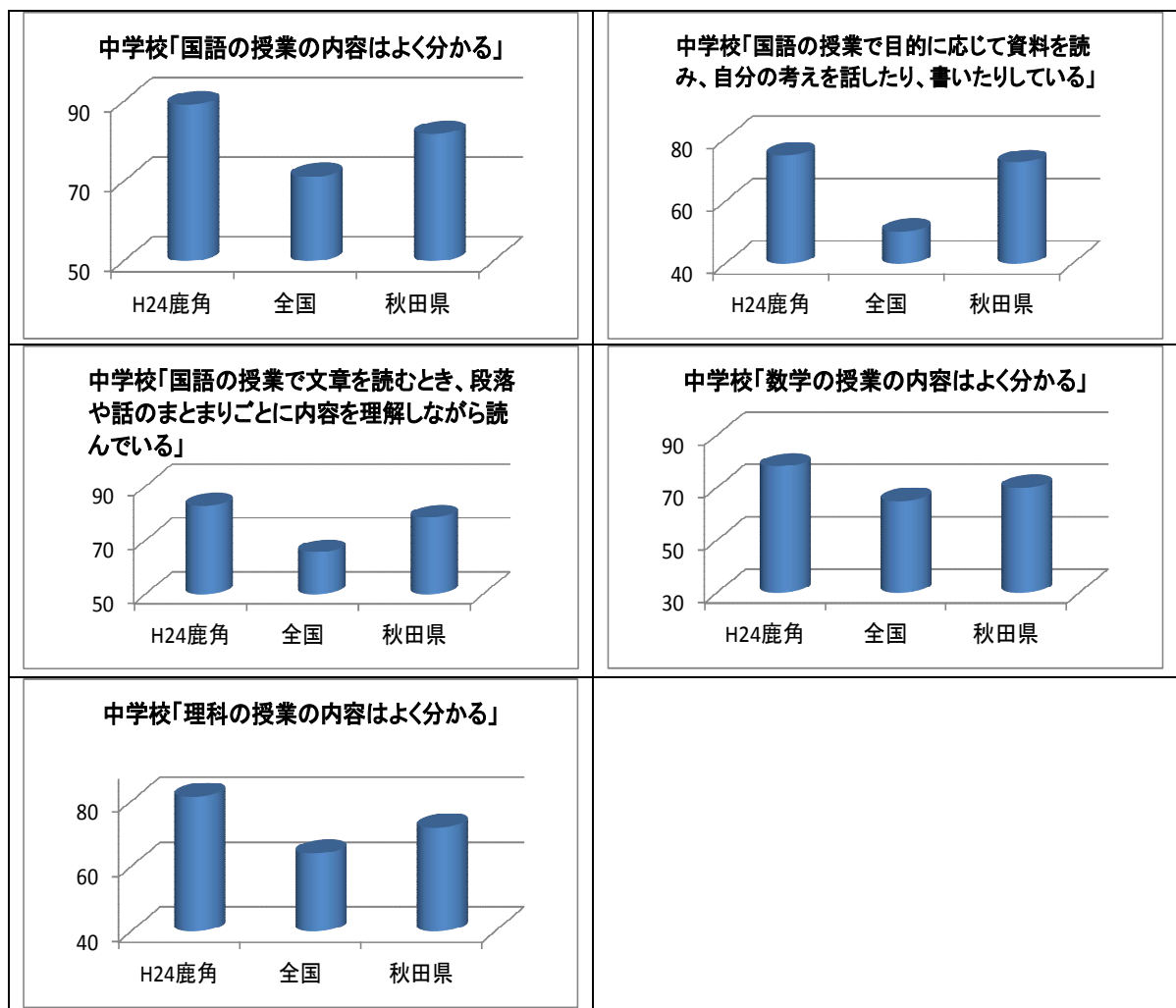


中学校「普段の授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」

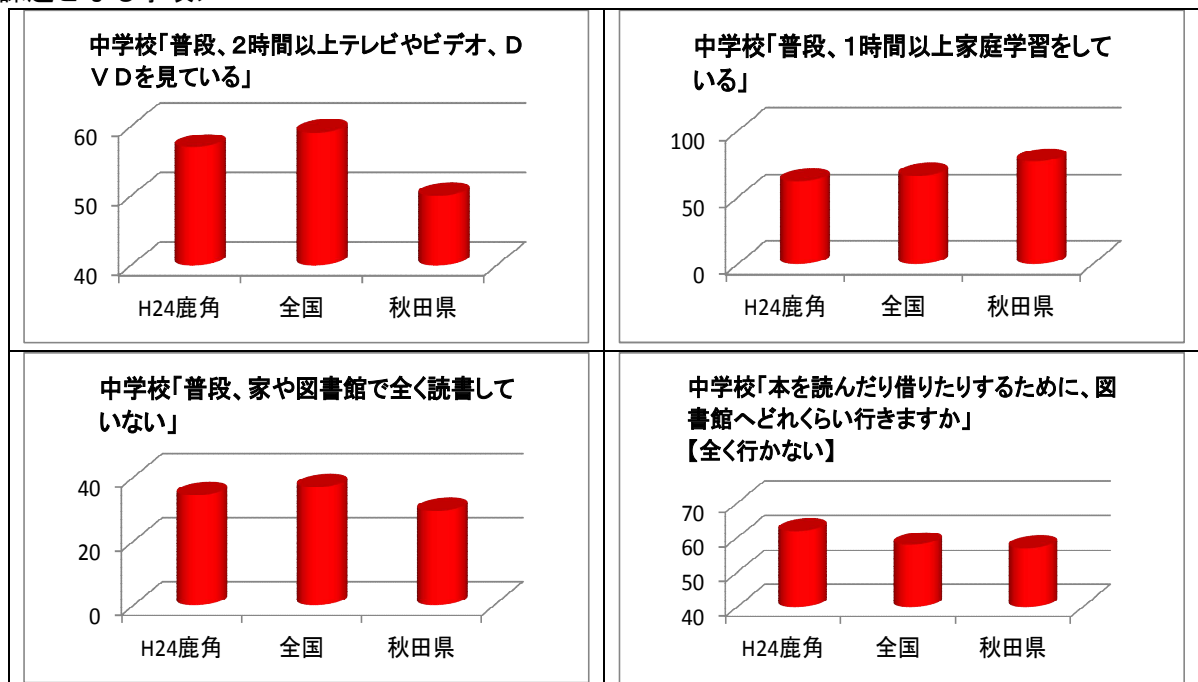


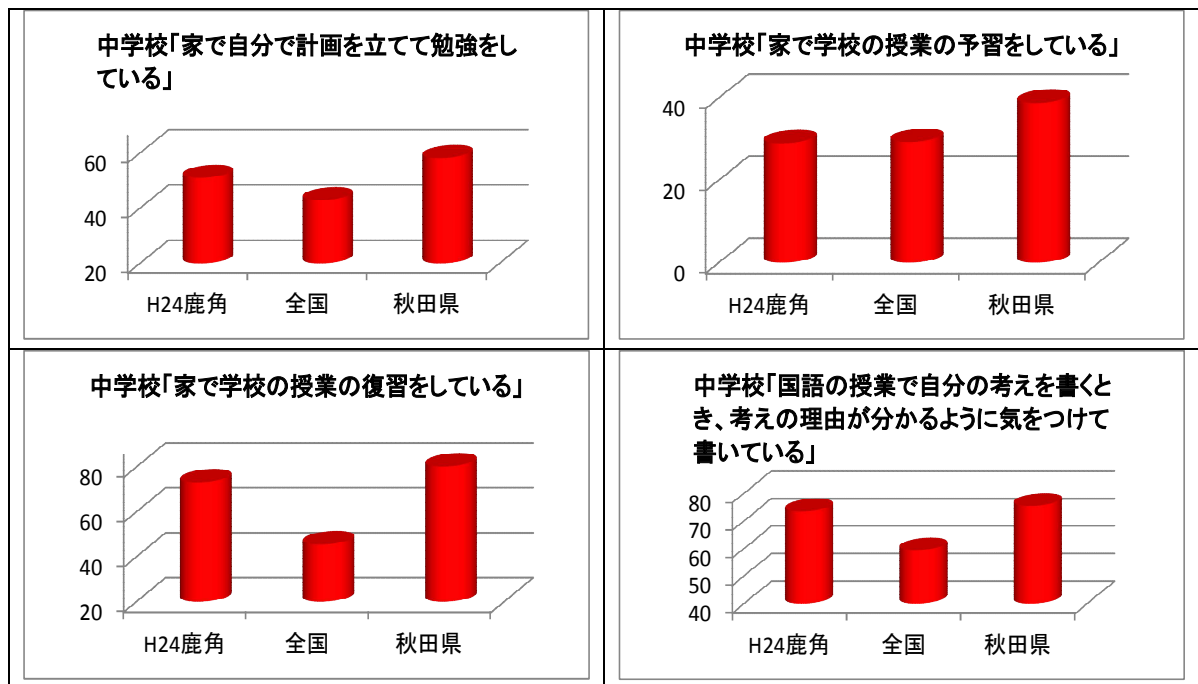
中学校「普段の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っている」





<課題となる事項>





3. 調査の結果から

- (1) 小・中学校とも、「朝食を毎日食べている」「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」「自分にはよいところがあると思う」「将来の夢や希望をもっている」「普段(月～金曜日)の就寝時間【小・10時、中・11時】」「休日に1時間以上は勉強している」「家の人と普段(月～金曜日)夕食を一緒に食べている」「家の人と学校での出来事について話をしている」「家の手伝いをしている」「家で宿題をしている」「友達に会うのが楽しい」「新聞やテレビのニュースに関心がある」「今住んでいる地域の行事に参加している」「近所の人にあいさつをしている」「人の気持ちがわかる人間になりたい」「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」「人の役に立つ人間になりたい」「総合的な学習の時間は普段の生活や社会に出たときに役に立つと思う」「本やインターネットを使ってグループで調べる活動をよく行っている」「普段の授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」「普段の授業では、話し合う活動をよく行っている」「国語の勉強は大切だ」「国語の授業で目的に応じて資料を読み、考えを話したり書いたりしている」「算数・数学の勉強が好き」「算数・数学の勉強は大切だ」「算数・数学の授業の内容がよくわかる」「算数・数学の問題の解き方が分からないときはあきらめずにいろいろな方法を考える」「理科の授業の内容がよく分かる」など、28項目については全国平均はもとより、全県平均を上回っており、望ましい傾向である。
- (2) 小学校で「家で学校の宿題をしている」の項目で「している」が秋田県平均よりも上回っているのに対し、「授業の予習をしている」の項目では「している」とする児童が下回っている。家での勉強が学校から課される宿題のみに偏っている児童が多く、あまり主体的なものでないことが分かる。今後も継続して児童が主体的に学ぶことができるよう、指導方法を工夫し、家庭との連携を図りながら、良好な学習習慣の形成と学習意欲の向上に努めていかなければならない。また、「国語の授業の内容がよく分かる」の項目で「分かる」が秋田県平均よりも下回っており、同時に「文章を読むときに段落やまとまりごとに内容を理解しながら読んでいる」では5%以上下回っている。文章を構造的に読み進めていくための技術を身に付けさせる指導を充実させていくことで、「できた。わかった。」という実感を持たせていく必要がある。
- (3) 中学校においても小学校と同様に、家での勉強が学校から課される宿題にばかり偏っており、自分で考えて予習や復習をしている生徒は秋田県平均よりも10%程度下回っている。また、「家で計画的に勉強をしている」生徒は50%程度しかおらず、さらに「普段(月曜～金曜日)、家で1時間以上勉強している」では「している」とする生徒の割合が秋田県平均よりも大きく下

回るだけでなく、全国平均にも及ばない結果であった。主体的に学ぶことができるよう、指導方法を工夫し、良好な学習習慣の形成と学習意欲の向上に努めていく必要がある。

「国語B—1のような、長い文章を読むのは難しい」では、前回（H. 22）と比較すると改善されてきている。これからも国語科の授業を中心に、目的をもって読み、「読んで、考えて、書く授業」を推進していきたい。

- （４） 「普段（月曜～金曜日）の家や図書館での１日あたりの読書量」の「全くしない」が、小学校では20%、中学校では30%を超えている。また、小・中学校において「昼休み、放課後、休日の図書館・図書室の利用状況」について「全く行かない」が秋田県平均、全国平均をともに上回っている。

今後、児童・生徒が読書に親しむよう、図書館経営や読書指導についての優れた実践例を紹介するなど、読書環境の整備をしていく必要がある。